

---

# About The Death <「死」について>

littleworker

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

About The Death <「死」について>

### 【Nコード】

N4296N

### 【作者名】

littleworker

### 【あらすじ】

「死」とは一体なんなのだろうか？

複数の「死」の形を元に私なりの答えを見つけて行くものになっています。

## （前書き）

私なりに「死」というものを分析しました。

皆さんもそれぞれ「死」について考えがあると思います。

5分もあれば読めてしまうようなものなので一度読んでもらえれば幸いです。

皆さんは知っているだろうか？死刑判決を受けた人間がどこに向かうのか……。彼らは普通とは異なり刑務所に入ることはない。また、彼らはそこで労働等の作業は強いられることは無い。それは、彼らの罪を償い形が「死」であるからだ。

私はここで、この制度がどうこう言つつもりはない。ただ、このことから、この世の中に「死」というものは「償罪」、つまり、罪を償うという特徴を持っているということがわかりになるだろう。

では、「死」というものは一体なんだろうか？私は宗教等に詳しくは無いが、よく耳にするものとしては、肉体は魂の器でしかない。というものだ。では、「死」とは肉体の終わりを表し、魂により起こした罪は、肉体の終わりをもって償われることになる……。犯した罪の魂への「償罪」は来世に持ち越しというわけになるのだろうか？

また少し脱線してしまいました。このような考え方を批判したいわけではありません。ここで私が問いたいのは「死」が持つ特徴や本質。すなわち、今までの事で、「死」には「償罪」・「一時的な終わり」・「通過点」という特徴を与えることができるのではないのでしょうか。

このまま考えられる「死」の特徴を連綿と書き出し、まとめ上げ、

本質とする。それも良いかもしれませんが。ただ、おそらく、生物の死、一つ一つに異なる「死」の特徴が存在し、それをまとめ上げるのは不可能に近い。そこで、別の観点から「死」の本質を導き出していきましょう。

しかし、まず、私が言う「死」の本質とは何なのかを皆さんに共有してもらわなくてはなりません。

いかなる「死」にも共通する事象は確かに存在する。魂や命という言葉を用いたくは無いが、ただ「動かなくなる」という表現では不十分であると私は思う。このあいまいな部分を表す言葉を私は知らない。この部分に関しては読者に感じ取ってもらうしかないと思う。また、これが同時に、私が言う「死」の本質であり、共通する事象に該当する。

では、本題に戻りましょう。

何か物を自分の物とする方法を、皆さんはどのように考えるだろうか？私は、自ら手に入れる方法と誰かから与えられる方法。この二つに大別することが可能だと考えます。これは、「死」にも当てはまります。では、この二つの方法の一般的ものはなんなのでしょう？

自ら「死」を手に入れる方法。抽象的かもしれませんが、おそらくは「自殺」だと、私は考えます。では、「自殺」から一体どのような

な「死」の特徴や本質を見出せるのだろうか？仮にもし「償罪」や「一時的な終わり」・「通過点」が「死」の本質を表すものだとしたら、「自殺」においてもこれらが当てはまらなければならぬ。ということになる。では、「償罪」についてみていきましょう。

まず先に、読者の方々に言っておかなければならないことがある。私は、「自殺」を試みたことは無い。そうとはいえ、「自殺」を考えたことが無いと言えば嘘になる。本音を言うならば、手首を切ったり、ビルから飛び降りたときの痛さに恐怖しているのだ。首吊りも同様だ。私はこの程度の人間なのである。この程度の人間が書くことであるから、以下の私の「自殺」についての意見について、読者の中には不快感を覚える方もいるだろうが、予め了承願いたい。

「償罪」。つまり罪を償うことであるが、「自殺」の中にこれは当てはまるのだろうか？「自殺」する者は償うほどの罪を持っていたのだろうか？

仮にその罪を持っていたとしよう。自殺者はこの世のつらさに耐えかねて、自ら「死」を手に入れる方法を選択するのではないだろうか？だとしたら、生きていることのほうが「償罪」になるのではないだろうか？確かに、「死刑」においても、死ぬよりもつらい、「償罪」の方法はあるだろう。人間は多少のことでは「死」を持つことはできない。「拷問」。結果的に「死」を持つことになっても、「償罪」という観点で言えば、「死」を持つまでの過程もまた、「償罪」に含まれるのではないだろうか？つまり、私は思う。この世界が持つ「死」の特徴である「償罪」は単なる人間のエゴであり、「死」の本質を表してはいないのだ。

では、自ら「死」を手に入れる方法。この方法での最たる「死」の特徴とは一体何なのだろうか？「苦しみ」・「虚無感」・「悲しみ」。  
。複雑に絡み合う負の感情。これが、最たる特徴だと私は思う。自ら「死」を手に入れる事を選択した者は、与えられる「死」とは異なり、時間をかけて「死」に直面し、そして手に入れる。最も「死」の本質に近い存在・・・。

だとしたら、複雑に絡み合う負の感情・・・という、言葉で表すことができず、あらゆるものを包括することが出来るものが「死」の本質なのだろうか？確かにそうなのかもしれない。あらゆる特徴が、「死」の本質という種から生まれ枝分かれし、実った果実だとするならば、「死」の本質とは言葉で言い表すことができないものであり、あらゆるものを包括するものになるだろう。

しかし、ここまで記述し、もつともらしい事を書き綴っている中で思うことがある。私たちは今、「死」を外側から見ているのではないだろうか？「償罪」・「一時的な終わり」・「通過点」・「苦しみ」・「虚無感」・「悲しみ」どれも、「死」を外側から見ている。

「償罪」とは先ほども記したが、「死」までの過程こそが「償罪」にふさわしく、「死」を生きている人間が外側から「死」を見て「償罪」という特徴をつけ、自己満足しているだけなのだ。「一時的な終わり」・「通過点」も同様だ。前世の記憶などを持っている人もいるが、大半の人はそんな記憶を持つてはいない。ならば、「一時的な終わり」・「通過点」とは、やはり、「死」を生きている人

間が外側から見ているのだ。自らを納得させるためだけに。「苦しみ」・「虚無感」・「悲しみ」も「死」に直面しているのだから、同様に外側から「死」を見ているのだ。

ならば、「死」を内側から見るとはどういうことなのだろうか？「償罪」。つまり、罪を償うことであるが、内側から見ると、罪からの「解放」となるのではないだろうか？「苦しみ」・「虚無感」・「悲しみ」は、それぞれの「解放」となる。これらは「死」が起きた瞬間に達成される。

では、議論を残している誰から与えられる方法において、「解放」は当てはまるだろうか？

誰から与えられる方法。典型的なものは「事故」・「殺人」であろう。これらに「解放」は当てはまるのであろうか？

「事故」・「殺人」これらによつて「死」を与えられた人は、何を思ふのだろうか？「怒り」・「憤り」・「憎しみ」……。だが、これらも「死」を持つ直前の感情だろう。「死」を持った瞬間、彼らはこれらの感情から「解放」される。

確かに、納得できない読者もいるだろう。ただ、私は思う。

「解放」。「死」に直面している者や、「死」を持つ直前の者の多



くは、「後悔」・「悲しみ」・「苦しみ」などの純粹で深い感情を持つてゐるのではないだろうか？だからこそ、彼らが「死」を持つた瞬間、その感情は「解放」され、周りの人間に影響を与える。人の「死」を体験した時、自分では理解出来ないほど涙を流した者いるだろう。いつも、冷静だった者が激情を露にする瞬間に出会った者もいるだろう。

「解放」。確かに、今回の議論だけで、「死」の本質を本当に導き出すことが出来たかと言えば、疑問は残る。ただ、「死」は「ネガティブ」というのは、残された者の解釈であり、今回の結論である「解放」は別の観点から「死」を捉えたものであり、より「死」の本質に近い位置から「死」の本質を捉えた結果であると、私は思う。

「死」は「解放」。そうであるならば、「死」を持つ前に、純粹で深い「優しさ」・「思いやり」・「愛情」など、これらの感情を持つてゐることが出来るのであれば、人の「死」とはどのような結果を周りの者に残すのであろうか・・・

Thank you for your reading .

（後書き）

読んでいただきありがとうございました。

「死」についていかがでしたでしょうか？

もしよければ、皆さんの「死」の本質や感想をいただけると幸いです。

ありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4296n/>

---

About The Death <「死」について>

2010年10月10日01時39分発行